

宮城山岳通信第15号

目次

巻頭言	富塚和衛・・・1～2頁
定例役員会報告	事務局・・・2～3頁
宮城支部山行報告	
☆支部設立60周年記念国外登山（共益事業山行）	草野洋一・・・3～4頁
☆部設立60周年記念祝賀登山（共益事業山行）	佐藤昭次郎・・・4～5頁
山行以外の宮城支部行事開催報告	
☆宮城支部設立60周年記念講演会	遠藤銀朗・・・5頁
☆宮城支部設立60周年記念祝賀会	富塚和衛・・・5～6頁
☆JAC宮城支部晩餐会	事務局・・・6頁
宮城支部以外の日本山岳会関係行事参加報告	
☆日本山岳会自然保護全国集会報告	柴崎 徹・・・7頁
☆平成30年度全国支部合同会議参加報告	富塚和衛・・・7～8頁
平成31年1月～平成31年4月の行事予定	事務局・・・8頁
編集後記	遠藤銀朗・・・8頁

巻頭言

「岩壁・氷壁」

支部長 富塚和衛

12月中旬に、岩手支部が主催した～「安全登山教室」開催のための講座～に参加した。講師は(公社)日本山岳会副会長の重廣恒夫氏。彼はヒマラヤの山々の初登頂・初縦走等に枚挙の暇もない程の足跡を残す、言わずと知れた日本を代表する岩壁・氷壁に挑み続けたアルピニスト・クライマーだ。因みに小学生時代に始めた昆虫採集で珍種を求めて山奥に入るようになったのが、登山に傾倒して行くきっかけとなったと言う。

彼の講義は迫力があつた。一つの小さなミスが、命取りに成り兼ねない世界を渡り歩いて来た者であるからこそのことだろう。実学の現場では叱声が飛ぶなど、将に、「頭で覚えるな。目・体で覚えろ。」の言葉が印象に残る身に着く講座であつた。

無論、私には岩壁・氷壁に挑む技量も度量もない。「壁」に挑む事など無理ではあるが、興味はあつた。登攀することは出来ないが誰しもが、媒体を通じて若しくは、直に見て疑似体験することは出来る。

山岳小説家の新田次郎の著書に「銀嶺の人」がある。ヨーロッパアルプス三大北壁を女性として初めて完登した今井道子女医と若山美子をモデルにした女性登山家2人のマッターホルン北壁

に挑む山岳小説だ。この小説を読み、今井道子女史の「私の北壁」三部作を読んだことがある。これを機にマッターホルン(4478m)、アイガー(3970m)、グランドジョラス(4208m)の北壁をこの目に焼け付けたいと思っていた。そのチャンスが数年前に訪れた。最初の地は、ヨーロッパのアルピニズムを学ぶために榎有恒が若き日に滞在したグリーンデルワルド村が麓に広がるアイガー。村を挟んで位置するメンリッヒエンの丘から見た東稜線上にミッテルレギ小屋があるアイガー北壁は、想像を絶する岩壁・氷壁だった。次に訪れたのはツエルマツが登山基地となるマッターホルン。麓の小さな湖シュバルツゼーから望む裾に白いペールを纏い紺碧の空に鋭角な尖塔を突きさすその山容は、真に絵の世界だった。最後はシャモニーを基地とするヨーロッパアルプス最高峰のモンブラン(4810m)の東側に位置する頂稜に6つの頂が並ぶグランドジョラス。急峻な岩壁に氷雪で髭を刻むモンブランとは対照的なその姿に魅せられた。アルプス三大北壁は、今でも鮮明に脳裏に焼き付く忘れ得ぬ山岳風景だ。

山への関わり方は、人其々でいい。安全で楽しく、そして人生の潤い・糧になれば。アルピニスト・クライマー・ワンダラー・トレッカー・ハイカー・トレイルランなど区分はあるようだが、身の丈にあった立ち位置で関わればよい。こう有らねばならぬと言うものではないと私は思う。

定例役員会議事録

☆ 平成 30 年 10 月定例役員会議事録

日 時 : 10 月 24 日(水) 18:30~20:30
 場 所 : 仙台市シルバーセンター 5F 会議室
 出席者 : 富塚支部長、遠藤副支部長、千葉、草野、柴崎、松田、千石、佐藤、富塚(真)
 計 9 名

《報告事項》

(1) 総務・財務委員会からの報告

- ①山岳関係機関からの受理状況
 - ・「安全登山教室」開催のための講座案内
 - ・「山のマナーノート」の配本

②平成 30 年度支部合同会議の概要報告

(2) 山行集会委員会からの報告

- ①第 7 回親子登山教室実施結果
- ②第 8 回登山教室実施計画

(3) 設立 60 周年特別委員会からの報告

- ①台湾玉山登山実施結果
- ②講演会・祝賀会・祝賀登山申し込み状況

(4) 会報編集出版委員会からの報告

- ①宮城山岳通信第 14 号発行計画

《審議事項》

- ①「宮城支部登山計画書に関する取扱い基準の一部改正」について

- ・下山後報告の改正内容について了承
- ②遭難事故防止・対応における組織編成
 - ・指導・遭難対策委員会を充実、組織編成することを承認
- ③第 35 回東北・北海道地区集会開催に向けた組織体制の整備
 - ・特別委員会を立ち上げることを承認
- ④「支部設立 60 周年祝賀宣言」文について
 - ・特別委員長起草案(案)を一部修正し承認
- 《その他》
- ①本部晩餐会出展について
(事務局報告)

☆ 平成 30 年 11 月定例役員会議事録

日 時 : 11 月 28 日(水) 18:30~20:30
 場 所 : 仙台市シルバーセンター 5F 会議室
 出席者 : 富塚(和)支部長、遠藤副支部長、佐藤(昭)、鈴木、草野、松田、千石、富塚(真)、千葉
 計 9 名

《報告事項》

- (1) 総務・財務委員会からの報告

- ①山岳関係機関からの受理状況
 - ・秋田支部からのお知らせ
 - (2) 山行集会委員会からの報告
 - ①1月冬山山行実施計画
 - (3) 会報編集出版委員会からの報告
 - ①宮城山岳通信第15号の発行計画
 - (4) 支部創立60周年記念特別委員会からの報告
 - ①支部設立60周年記念講演会・祝賀会・祝賀登山実施結果
- 《審議事項》
- ①第35回東北・北海道地区集会特別委員会設置について

- ・委員会の設置と委員構成について承認
 - ②本部設置家族登山連絡会への参加
 - ・参加について承認（情報収集のみの参加）
- 《その他》
- ①本部晩餐会出展キャンセル報告
 - ②平成30年度支部晩餐会&オークションの開催計画
 - ③中華民国山岳協会黄理事長からの書簡
 - ④宮城山岳環境指導員の委嘱依頼
 - ⑤有志による「宮城玉山会」の創設
 - ⑥「安全登山教室」開催のための講座参加者数報告
- （事務局報告）

宮城支部山行報告

☆支部設立60周年記念国外登山

（玉山）（共益事業山行）

山 域： 台湾・玉山（3,952m）
 日 時： 10月9日（火）～15日（月）
 参加者： （会員）富塚和衛（リーダー）、遠藤銀朗、千石信夫、富塚眞味子、草野洋一、（支部友）岩淵利秋、津久井宏、山田孝司、鳥田伊志
 （一般）佐藤田鶴子
 報告者： 草野洋一

宮城支部60周年記念登山として計10人で台湾の最高峰「玉山」に遠征しました。

9日、仙台空港に集合してピーチ航空で台北・桃園国際空港へ。

空港には中華民国山岳協会から顧問の張玉龍さんと今回のガイドをしてくれる同会員の林哲全さんが出迎えてくれました。台北市内のホテル泊。

翌10日、チャーターしたバスで玉山山麓のホテルへ。途中、陽明山国家公園内の「竹子湖蓬莱米原種田故事館」へ。故事館には台湾総督府時代に赴任して台湾稲作の品種改良にあたり、台湾米として普及した「蓬莱米」の育成にあたった山岳会名誉会員で仙台出身の

平澤亀一郎さんの業績が展示、紹介されました。平澤さんは台湾山岳協会常務理事として台湾山岳会の創立に尽力されました。また今回の山行に亀一郎さんのお孫さんである佐藤田鶴子さんが同行していたこともあって国家公園管理處長はじめ職員の方から懇切丁寧な説明、案内をして頂きました。訪問のあと玉山山麓にあるホテルへ。

11日。8時にホテルを出て塔塔加鞍部登山口（2,610m）へバスで向かう。外国人の入山数が制限されているため途中でパスポートチェックを受ける。9時45分登山口を出発、16時10分に宿泊する拝雲山荘（3,402m）着。登山路はよく整備されていました。夕食は各自お皿を持っておかず、ご飯、汁物を受け取って食事。山荘備え付けの寝袋を使って就寝。

12日。2時起床。朝食をとって3時、ヘッドランプをつけて出発。6時20分に全員が登頂。残念ながら御来光はのぞめなかったが周囲の山々の展望はできました。寒かったので早々に記念写真を撮り、林さん手配の温かいお茶を飲んで下山。9時に山荘に着き、軽食をとる。雨足が強くなり合羽を着て山荘を出る。14時30分に登山口着。麓にあるビジターセンターで昼食をとり、沙里仙温泉渡假村のホテルへ。

13日。かつて玉山登山ルートとしていた登山口を見学。「玉山旧登山口」と標記された石碑がたっていた。このあと観光地の「日月潭」や紹興酒の工場を見学。夕刻に台北のホテルへ。チェックインしたあと近くのレストランへ。張さん、林さんと共に登頂成功を祝っての夕食会を開いた。

14日。忠烈祠で衛兵交代を見学したあともう一つの楽しみ故宮博物館に。有名な「翠玉白菜」は行列だった。館内のレストランで昼食のあと「龍山寺」を見学して夕刻にホテル着。リュックを部屋において歩いて中華民国山岳協会ルームを表敬訪問。黄榿楠理事長以下10名余の会員の方々が迎えてくれました。自己紹介のあと我々全員に「玉山登頂証明書」、中華民国山岳協会の刺繍のはいった帽子、Tシャツのプレゼントがあり、宮城支部訪問団から宮城のお酒、ウイスキー、鳴子けしを贈呈。さらに山岳協会から宮城支部に中華民国（台湾）の国土を翡翠でかたどった額をいただきました。お菓子、お茶の接待をうけ、記念写真を撮り、日本山岳会の旗に皆でサイン。さっそくルームに掲げてくれました。ルームには平澤亀一郎氏の使用したロープと

ピッケル（山内）が大きな額に入れられて飾ってあり、現在でも平澤さんが尊敬されていることを如実に物語っていることがわかりました。とくにお孫さんの佐藤田鶴子さんが来訪されたこともあって山岳協会員から大歓迎されました。

しばし歓談のあと近くのレストラン「欣葉」に場所を移し、中華民国山岳協会主催の晩餐会に招待されました。会場では和気あいあい盛り上がって時間のたつのも忘れるほどの楽しい晩餐会でした。

15日。帰国の途へ。張顧問、台湾滞在中ずっと同行してくれたガイドの林さんが桃園空港まで一緒に来てくれて別れを惜しんだ。11時発のピーチ航空で仙台へ。

台湾到着時、この先一週間の天気予報をチェックするとずっと雨マークがついており、先行きが心配だったが、幸いに大雨は下山時に降られただけだった。高山病対策として会員である千葉正道さんの処方された高山病予防の薬を服用しました。それでも3人ほどが発症しましたが登山に影響はありませんでした。仙台空港に到着してみな異口同音に「楽しかったね」と言って解散しました。

☆支部設立 60 周年記念祝賀登山

（太白山）（共益山行）

- ・ 実施日：平成 30 年 11 月 18 日（日）
- ・ 山 域：仙台市太白区（太白山 320, 7m）
- ・ コース：宿泊地（茂庭荘）----市ガス局茂庭給油所前----生出森八幡神社鳥居前（入山）- 八幡神社社殿----山頂-----（登路を下山）----宿泊地へ（解散）
- ・ 参加者：（宮城支部会員 13 名 & 友会員 6 名 本部及び支部代表者他 7 名 計 26 名）
富塚和衛 遠藤銀朗 千石信夫 宇都宮昭義 草野洋一 松田照夫 太田 正 千田早苗 高橋二義 千葉正道 横山 哲 富塚眞味子 山田孝司 岩淵利秋 多田孝徳 蔭山美緒子 佐藤富士子 津久井宏 佐藤昭次郎 中山茂樹（本部） 西山泰正（北海道支部） 中村 勉

（青森支部） 中屋重直（岩手支部） 佐藤一夫（福島支部） 大島康弘（静岡支部） 渡邊雄二（栃木支部・招待）

・ 報告者： 佐藤昭次郎

記念登山を役員会で会員構成や時期などを考慮し宮城仙台のランドマーク的な太白山を選定しました。下見をして祝賀登山に備えました。

当日は、祝賀会の翌朝という事で出発時間を茂庭荘 10:00 とし、ゆっくりとした出発としました。玄関前で今日の山行計画を短時間に紹介、参加者総数から 2 班に分けて行いました。A 班リーダーを遠藤副支部長が担当し続く B 班を私が担当し、これより素晴らしいお天気は無いだろうと思われるなか A 班 B 班の順で宿泊地を出発しました、途中予定の休憩を入れ、晩秋の残った紅葉を散策しながら生出森八幡神社の鳥居前に着（10:55）。

最後尾で登っていましたが急斜面岩場で支部友会員の津久井さんが追いつき、記念山行だけは参加したいと、当日参加されました。

その後、鎖場を急登し11:30に太白山頂上に到着し、昼食休憩としました。晩秋の好天の下にある周辺山地（船形連邦、蔵王連峰、泉ヶ岳、七ツ森など）と牡鹿半島、仙台湾、太平洋の茫洋とした眺望を楽しみました。後続を待って12:00に日本山岳会宮城支部設立

60周年記念「太白山宣言」を唱和し、今後も登山に関する知識と文化の普及、自然愛護や次世代が山に親しむ機会を提供すること等に宮城支部は貢献することを誓いました。

全員による記念撮影の後12:30にA班先頭に下山を開始し、14:15に全員の茂庭荘帰着を確認しました。その後解散式を行い、記念講演会から始まった一連の祝賀記念行事を無事終了しました。

山行以外の宮城支部行事開催報告

☆支部設立60周年記念講演会報告

開催日時： 2018年11月17日（土）14:00～16:10

会場： 仙台市太白区茂庭字人来田 「茂庭荘」会議室

報告者： 遠藤銀朗

日本山岳会宮城支部設立60周年記念講演会は約60名の出席者を得て開催された。

司会は千石信夫元宮城支部長が行い、富塚和衛宮城支部長から開会挨拶がなされ、記念講演会開催の趣旨とプログラムの説明、講師及び参加者への感謝の言葉が述べられた。開会挨拶に引き続き以下の内容で講演がなされた。

演題1：「寒さと人体—山での遭難を避けるために—（仮題）」

講師：大江洋文氏

医師（外科学会専門医）、認定国際山岳医、仙合一高山の会会員、東北大学医学部ワン

デルング会OB、第54次及び第58次南極越冬隊員

演題2：「登山活動の安全管理の基礎～山岳会の指導者として」

講師：渡邊雄二氏

公益社団法人日本山岳会栃木支部長、前国立登山研修所所長

1975年マカルー登山隊、1988年三国友好登山隊

講演会会場に、大江洋文講師により紹介いただき国立極地研究所から貸与いただいた南極越冬用の防寒装備（防寒着、防寒靴、防寒手袋、防寒帽）、パンフレット「南極観測」、および南極の氷等の展示コーナーを設けた展示会も開催した。

非常に内容のあるお二人の講師によるご講演がなされ、それらに対する会場からの質問なども活発になされ意義のある記念講演会であった。また、講演会会場に併設された展示会も好評で、南極の自然と寒さを実感できる良い機会を得ることができた。

☆支部設立60周年記念祝賀会報告

報告者： 富塚和衛

宮城支部設立60周年記念祝賀会は、招待者を含め39名の参加をいただき平成30年11月17日（土）、記念講演会に引き続き、18:00

から茂庭荘の大広間で盛大に開催された。千石信夫元支部長の司会の下、支部長式辞、日本山岳会中山茂樹副会長からの祝辞に続き、柴崎徹元支部長の乾杯の音頭で祝賀会が始まりました。

祝賀会では音楽好きの会員が趣向を凝らしたアンサンブル演奏で会場を盛り上げて

くれました。演奏に参加して頂いた元仙台フィルハーモニー管弦楽団の山本靖子氏を始め、中島幸子氏、中島祐氏には感謝申し上げます。この3名の方々に千葉正道会員、遠藤副支部長が加わり、弦楽重奏が調べを奏でてくれました。演奏曲はハイドン作曲「弦楽四重奏作品3の第5」第1楽章とモーツァルト作曲「クラリネット五重奏」第2楽章、そして、松田照夫会員の合唱リードによる五重奏の伴奏での「花は咲く」と文部省唱歌「故郷」を参加者全員で熱唱しました。この熱唱で会場は一つになった感になりました。

暫し歓談後、招待させていただいた東北・北海道地区の西山(北海道)、中村(青森)、鈴

木(秋田)、中屋(岩手)、佐藤(福島)支部長等からご祝辞を頂き、更には、遠路参加して頂いた大島静岡元支部長からスピーチを頂きました。スピーチを頂いた支部長からは、「素晴らしい」と声も聴かれるなど大いに楽しんでいただいた祝賀会となりました。

最後に、余興としてカルテット(支部長経験者4名)による「蔵王」の歌が披露され祝賀会は終焉に向かいました。

生演奏によるクラシックを聴きながらの祝賀会は参加者にとっても心に残る祝宴となったのではないのでしょうか。参加した皆様には感謝申し上げたいと思います。

☆JAC 宮城支部晩餐会報告

報告者：事務局

今年の年次晩餐会も、12月16日(日)、仙台冬の風物詩でもある光のページェントで賑う一番町はスマイルホテルの3階の「シェルブール仙台」で午後6時から開かれました。参加者は15名。事務局長の司会進行で始まりました。

開会にあたり、支部長から本年度の支部発足60周年記念事業が会員の協力で円滑に進める事が出来たこと、来年度は第35回東北・北海道地区集会を宮城支部が担当して行う事など挨拶があり、続いて高橋二義指導・遭難対策委員長の発声で声高らかに乾杯を行い、暫し歓談の時間が始まりました。

その後、参加者全員から「今年一年を振り返っての一言」がありました。多くの会員からは、玉山登山の思い出や、60周年記念の祝賀会、岩手・宮城内陸地震10周年メ

モリアル合同登山などについて話がありました。更には、来年はヨーロッパアルプストレッキングを計画したい旨の楽しみのあるお話もありました。又、健康に関するお話もあり、共通の問題を抱える年代には身に染みるお話でもありました。

続いて、恒例のオークションが行われました。今年は前もってお願いしていたのが功を奏したのか、会員の皆様からは「眠るお宝」が多く出品され、中には、自然薯などの出品もあり、大いに盛り上がりました。その結果、昨年の1.5倍の落札額となり、瀕死の状態にある宮城支部の財源に一役買ってくれる貴重な金額となりました。落札者には感謝申し上げます。

例年ですと、晩餐会は木皿会員が幹事役を務めてくれていたのですが、今年度は木皿会員の姿がない晩餐会となったことは、少し、残念な今年最後の支部行事となりました。

宮城支部以外の日本山岳会関係行事参加報告

☆ 日本山岳会自然保護全国集会報告

報告者：柴崎 徹

2018年度の自然保護全国集会は、7月8、9日の両日石川県能美市辰口町の旅館「まつさき」で「白山をめぐる動植物の現状と今後」をメインテーマとして、全国各支部から自然保護担当委員が集まり開催された。「まつさき」は、文人墨客の寄寓した由緒ある旅館で、広い庭園の池には蓮の花さえ咲いていた。

集会は主催者の挨拶ののち、各支部からの活動報告に移り、宮城支部からは山岳放射線調査のその後と震災復興事業にともなう丘陵地の山々への影響の2点について報告させていただいた。

午後の冒頭、梶典雅さん（元石川県白山自然保護センター長）による「白山周辺の自然と歴史・文化」と題した基調講演がなされた。白山は日本海側の厳しい気候下にあつて2700mの標高をもつ。しかも、その位置は高山帯に見られる山岳として日本の西端にあたる。このため、特徴ある高山植物が多数見られ、白山の名を冠した植物20種以上、高山植物の一大示標地に

なっている。しかし、近年の温暖化はこれら貴重な高山植物に大きな影響を与えており、分布域を減じている種、生存が危惧されている種などが認められるようになってきている。このために、種子の採取と栽培育成事業に数10年に亘って取り組んできていることの詳しい報告があった。

その後、次の3つの分科会で討論があった。①、白山周辺の植物。②、ライチョウ・トキ・イヌワシの孵化と飼育について。③、高山植物調査の基礎知識について。私は③に参加、そのマトメも急遽依頼され行った。

翌9日はバスで西山に移動、白山高山植物園の発芽育苗用温室、馴化フィールド、移植したフィールドなどを見学させていただいた。これらの作業にはNPO法人白山高山植物研究会（JAC会員も参加）が大きな力になっている。白山を眺めながらの内容の充実した2日間の集会であった（この詳しい内容は「木の芽草の芽134号」を見てほしい）。

☆ 平成30年度支部合同会議報告

報告者：支部長 冨塚和衛

平成30年度支部合同会議が9月29日（土）、30日（日）プラザ・エフ（東京都千代田区）を会場に開催された。台風24号の接近により、一部議題が割愛された。会議の概要について報告する。

（1）会長挨拶

★会員増加策、中長期の財政的安定、安全登山を視野に組織運営する旨の挨拶。

（2）会務報告

担当理事から資料で説明あり。

★登山計画書提出状況（中山副会長）関連して、遭難事故における組織編成及び事前のマ

ニユアル化（重廣副会長）

★記念事業委員会報告（アンケート結果）

★会計報告書と寄付の取り扱いについて（古川財務担当理事）

★遭難における緊急連絡先の必要性和登山計画書の重要性（中山副会長）

（3）入会者の増強に向けて

★H29年度は再び減少傾向→日本山岳会に魅力がない事が原因（力を合わせて魅力を発信する努力必要）←会長

★事例発表

《東海支部》《東京多摩支部》《北海道》《岩手》《群馬》より会員増への取り組みについて事例発表がなされた。

- ★登山教室のアンケート結果
- (4) 第35回全国支部懇談会のご案内
 - 主催する栃木支部から説明あり
 - ・期 日 2019, 5, 25~26
 - ・宿 泊 奥日光 光徳温泉
「日光アストリアホテル」
- (5) 「山の日」活動について (萩原理事)
- ・2018 実施 (鳥取県大仙市) の報告
- ・2019 実施→山梨県
- ・2020 実施→大分県
- (6) 連絡事項
 - ・家族登山連絡会の設立の提案
 - ・新入会員用の動画について
 - ・ヒヤリハットの事例提出依頼

日本山岳会宮城支部の平成31年1月～平成31年3月の行事予定

- ◎平成31年1月
 - ☆1月元旦
泉ヶ岳元旦登山 (有志)
 - ☆1月上旬
宮城山岳通信第15号発行
 - ☆1月16日(水)
定例役員会 (仙台シルバーセンター)
 - ☆1月20日(日)
冬山山行 (鷹ノ巣山)
- ◎平成31年2月
 - ☆2月7日(木)
第35回東北・北海道地区集会第2回特別委員会 (仙台シルバーセンター)
 - ☆2月11日(月祝日)
厳冬期山行 (山域未定)
 - ☆2月13日(水)
定例役員会 (仙台シルバーセンター)
- ◎平成31年3月
 - ☆3月20日(水)
定例役員会 (仙台シルバーセンター)
 - ☆3月24日(日)
早春山行 (山域未定)

編集後記

平成30年度の最終号となる「宮城山岳通信 第15号」を宮城支部関係者にお届けいたします。この宮城山岳通信を3ヶ月に1回定期的に発行することができたことで安堵しておりますが、これも多くの会員・会友の皆様、そして役員と会報編集出版委員の皆様のご協力とご支援のお陰でありました。この場をお借りして改めて感謝申し上げます。

今は冬で、山々は雪化粧で輝いております。新しい年が始まり、2019年も支部の会員・会友の皆様は新しい気持ちで山岳活動と山岳文化活動に取り組まれることと思います。それら活動の記録と成果報告のための機関誌として、今年も宮城支部の会報出版につきまして引き続きご支援とご協力を宜しくお願ひ編集後記といたします。

会報編集出版委員長 遠藤銀朗

宮城山岳通信

発行 公益社団法人日本山岳会 宮城支部
 発行日 2019年1月10日、 発行人 富塚和衛
 編集出版委員 遠藤銀朗、千石信夫、富塚和衛、細川光一、三宅 泰
 事務局 983-0821 仙台市宮城野区岩切畑中9-12 Tel・Fax 022-255-7398